

《履修上の留意事項》面接授業と遠隔授業の併用実施

《担当者名》○前田秀彦 葛西聡子

【概 要】

聴覚障害の診断に必要な基本的検査に関する理解と機器操作を習得する。

【学習目標】

「一般目標」

1. 聴覚障害の診断・治療に必要な検査法、評価法について理解する。

「行動目標」

1. 標準純音聴力検査を実施できる。
2. 語音聴力検査を実施できる。
3. 中耳・内耳機能検査を実施できる。
5. 他覚的聴力検査を実施できる。
4. 聴力検査の留意点を具体的に説明できる。
5. 複数の聴覚検査法の関連性を理解し、検査所見を述べることができる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1) 3	オリエンテーション 標準純音聴力検査1,2	グループ確認 標準純音聴力検査手技説明 オージオメータの確認 気導聴力閾値の測定	前田秀彦 葛西聡子
4) 5	標準純音聴力検査3,4	標準純音聴力検査手技の復習 気導聴力閾値の測定	前田秀彦 葛西聡子
6) 7	標準純音聴力検査5,6	骨導閾値測定時における注意点の確認 気導・骨導聴力閾値の測定	前田秀彦 葛西聡子
8) 9	標準純音聴力検査7,8	プラトール法によるマスキングの説明 気導・骨導閾値の測定（マスキング負荷あり）	前田秀彦 葛西聡子
10) 11	標準純音聴力検査9,10	気導・骨導閾値の測定（マスキング負荷あり）	前田秀彦 葛西聡子
12) 13	語音聴力検査1,2	語音了解閾値検査の説明 語音了解閾値の測定 語音弁別検査説明 最高語音明瞭度の測定	前田秀彦 葛西聡子
14) 15	語音聴力検査3,4	語音了解閾値の測定 最高語音明瞭度の測定	前田秀彦 葛西聡子
16) 17	中耳・内耳機能検査1,2 ティンパノグラム 耳小骨筋反射 DPOAE	ティンパノグラム、耳小骨筋反射検査の手技説明 ティンパノグラム、耳小骨筋反射検査の実施 自記オージオグラム、SISI検査の手技説明 自記オージオグラム、SISI検査の実施	前田秀彦 葛西聡子
18) 19	中耳・内耳機能検査3,4 ティンパノグラム 耳小骨筋反射 DPOAE	ティンパノグラム、耳小骨筋反射検査の手技説明 ティンパノグラム、耳小骨筋反射検査の実施 DPOAE検査の手技説明 DPOAE検査の実施	前田秀彦 葛西聡子

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
20 (21	内耳精密検査5,6 自記オーディオ SISI	自記オーディオグラム、SISI検査の手技説明 自記オーディオグラム、SISI検査の実施	前田秀彦 葛西聡子
22 (23	内耳機能検査7,8 自記オーディオ SISI	自記オーディオグラム、SISI検査の手技説明 自記オーディオグラム、SISI検査の実施	前田秀彦 葛西聡子

【評価方法】

演習課題レポートによる評価（100％）とする。

【備 考】

教科書 ： 日本聴覚医学会 編 「聴覚検査の実際 改訂4版」 南山堂 2017年
中村公枝 他 編 「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第2版」 医学書院 2015年

参考書 ： 小川郁 編集 「よくわかる聴覚障害 難聴と耳鳴りのすべて」 永井書店 2010年
青木直史 著 「ゼロからはじめる音響学」 講談社 2014

その他 ： 演習内容によって使用する教室が変わります。
グループによる演習が中心です。勝手な行動は慎むこと。
レポート提出はGoogle classroomを使用します。課題作成等にはノートパソコンを使用すると便利です。

【学習の準備】

- ・教科書を精読し、検査方法および留意点を事前に予習しておくこと。
- ・演習課題の内容、専門用語の意味等を理解して演習に臨むこと。
- ・履修した「音響学」を復習すること。分からない部分は、教科書・参考書などを参照したり、オフィスアワーを利用し担当教員に確認すること。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

前田秀彦（臨床検査技師、言語聴覚士）
葛西聡子（言語聴覚士）

【実務経験を活かした教育内容】

聴覚障害の評価・検査法、リハビリテーション、聴覚補償についての理論や知識、技術を身に付けることが出来るよう、机上ではない豊富な臨床経験に基づいた講義を展開する。